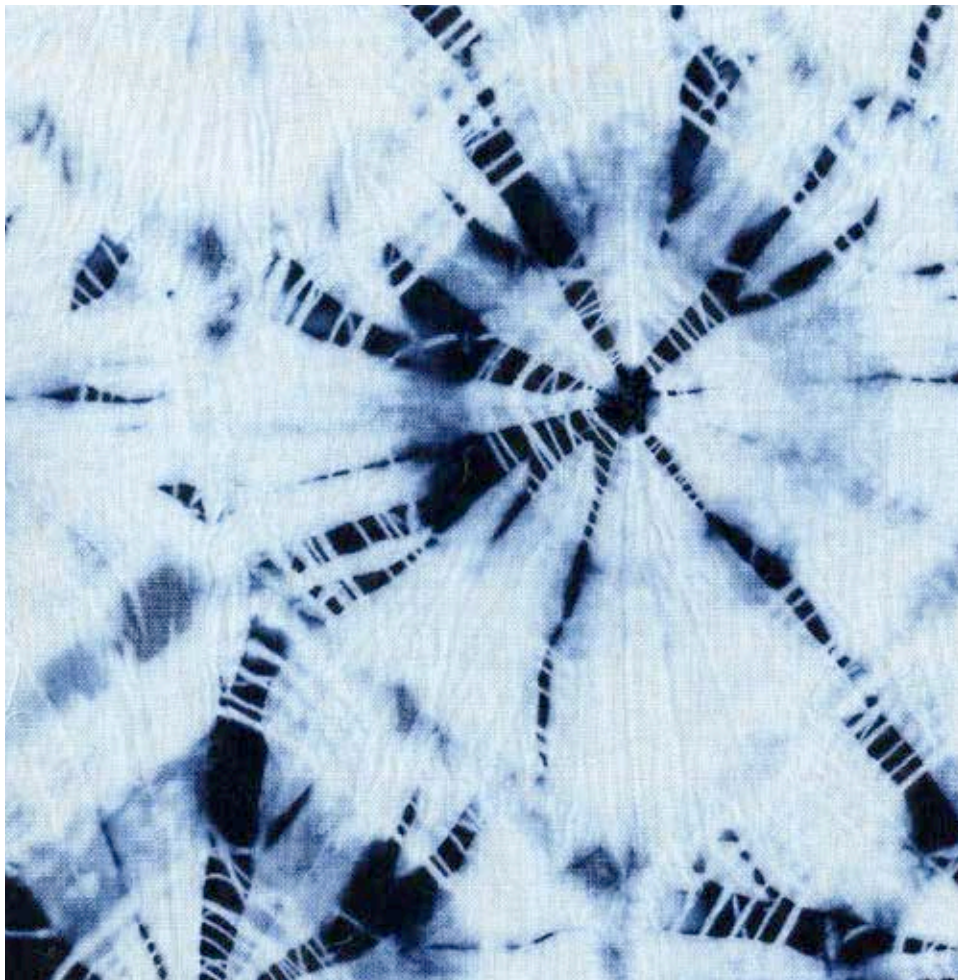


有 松

NO.85 有松まちづくりの会



◇蛇の目絞り

蛇の目絞りは手蜘蛛絞りの中の一種で、かに蜘蛛絞りの技法に加え一番上の部分、つまり鉤針に引っ掛けた方も数回絞る技法です。

染め上がりが唐傘（蛇の目傘）に似ているところからこの名称になりました。

解説：竹田 昌弘

有松「サローネ」構想

有松まちづくりの会会長

竹田嘉兵衛

日本遺産事業を締めくくるイベントとしてシンポジウムを開催します。その目的は、過去の歴史とこの三年間の日本遺産事業の経験を踏まえて、これから先三十年、有松はどのような方向性を持って進んでいったらよいかわというブランドプランを創ることと考えています。

遡って三十年前の有松はどうだったか顧みます。一九九〇年より準備を始め、一九九二年に名古屋国際会議場や美術館、そして有松・鳴海の染色工房等で第一回国際絞り会議を開催しました。この会議はシンポジウム、ワークショップ、展覧会、ファッションショーで構成

され、世界の二十ヶ国より八百五十人が参加しました。この会議は「絞りはいま新しい世界をつくる」をテーマとして、絞りをシェイプド・レジスト・ダイニング（立体的に防染された染め物）とするなど絞りの新しい概念の発見に始まり、それを実現可能にする形状記憶等の技術を研究することにより、それまで存

在しなかった新しい絞りを開発し、絞りの歴史に新しい世界を開きました。

一九九二年より現在に至る三十年間の日本の絞り市場は、その主力であった和装製品が大巾に衰退してしまい、今までは脇役であったアパレルやインテリア、そして小物のマーケットに頼って職人さん達を維持しなければならなかったこととなりました。そんな場面で新しいマーケットで通用する製品づくりに貢献したのは形状記憶等、国際絞り会議後に開発された新技術でした。

この新しい概念や新技術は、絞りの発展に興味を持ち、新しい事を考え出すことの出来る知恵や技術を持った人々が有松に集まり、研究し語り合った成果以外の何ものでもありません。

これから先三十年の未来を考えますと、有松を発展させるにはまず人が集まって来る町 有松をつくり上げたいものです。それに

は町に魅力があり、かつ訪れた人を地域の人がもてなす町でなくてはなりません。世界的な成功例としてはイタリアのミラノがあります。世界のインテリアの展示会の頂点に立つのはミラノのサローネです。（サローネはサロンすなわち客間を意味します）ミラノという都市そのものを客間にたとえて「世界の皆さんミラノという素晴らしく魅力的な客間に来て下さい」と呼びかけているわけです。来ていただけるお客様は単なる観光客だけでなく、この有名な商品の展示発表会には世界中のバイヤーやデザイナーも集まり、それらの人々はビジネスを通じて知恵や文化をミラノサローネに残し、結果としてミラノはファッションやインテリア産業の大拠点として今なお発展し続けているのです。

これからの三十年、先人達のご努力の賜物の「重要伝統的建造物群保存地区」で守られる「日本遺産」でさらなるまちづくりを進める有松。絞りを中心とする有松文化を発信し続けることにより、日本各地から、そして世界から集まってくる人々を、有松をサローネ（客間）としてもてなし、その人々とのふれ合いの中から新しい有松文化を創っていき、有松の発展に結びつけていきたいものです。

有松の魅力

名古屋市長 新庄 徹

この記事執筆している今、テレビでは、東京オリンピックが流れている。最近はスケートボードのような新しい競技が増え、そこで活躍している若い日本の方が多いことに驚いている。一方で、体操といった昔からの競技でも結果を出していることに勇気づけられた。競技に携わる方の努力に感服したとともに、努力を続けられる原動力はその競技が好きという想いだと思った。

有松を訪問した時、有松で活動されておられる皆さまが有松のことが本当に好きであると感じたことを思い出した。

有松が昔から魅力ある地域でありつづけているのも、「有松のことが好き」な皆さまが絶え間ない活動されてきているからなのだと思います、ここで活動されている「ひと」こそが、有松の魅力なのではないかとオリンピックを見ながら改めて感じている。

話は変わるが、7月に開催されておられた「有松ゆかたまつり」に写真家の先生に訪ねてもらった。左上の写真は竹田家の茶室で撮影したものである。

その写真家の先生と緑区観光推進協議会が昨年フォトコンテストを実施したのだが、その大賞は有松の風景である。この薄暮の有松天満社参道の写真(右下写真)を撮影したのは、高校生であった。神社の参道など、歴史的なものや古きよきものが分断されるなど、形を変えてしまった例は数多くあるが、個人的には、趣がなくなり切ないものだと感じていた。しかし、この写真を投稿してくれた高校生は、これこそが魅力的な有松だとして、応募

してくれたのである。これまでとは異なる視点から見ると、有松がさらに魅力的なものになると実感したフォトコンテストの結果であった。

来年には国際芸術祭が有松で開催される。これまで来たことがなかった人にも有松の魅力が伝わることはもちろん、アーティストの視点により有松の新たな魅力が引き出されることを願っている。



撮影者 石川 裕修 (JPS)
モデル ZHANG LOQI



『闇を駆ける』 撮影者 神谷 佳吾

日本遺産事業 浴衣展

愛知県絞工業組合では、二〇〇七年に後継者育成事業を発足させて今日に至っています。

今回の浴衣展開催に当たりどんな形で展示するのか、展示場所をどこにするのか、様々な課題が浮かび上がりましたが、本藍染めを中心とした浴衣作品群と現代的な感じがする浴衣作品群に分けて作成、展示するという内容にしました。藍染絞については四国の藍染業者に依頼をして有松・鳴海絞とのコラボといった内容にし、又現代的な浴衣については、地元工芸士会々長に製作の依頼をしました。括りに関しては、後継者育成事業の生徒さん、5年以上10年までの人達に取り組んで頂きました。この事業の目的でもある、産地の絞り技術の修得・継承・向上に沿った内容になったと感じています。絞りに関しては藍染めの味わいがとてもうまく表現出来ており、括り技術のレベルの高さにお客様も驚かれています。

展示会場については、当組合の竹田理事長にお願いをしたところ、快く引き受けて頂き、竹田邸にて開催することが出来ました。由緒、歴史の在る商家にて展示を行うことは、まさに作品を際立たせてくれる大きな効果がありました。

お客様は、「やはり建物と浴衣の調和が取れ、とても良い感じですね」と喜んでくださいました。大勢のお客様にご来場頂き、大いに盛り上がりました。

今後もうこうした取り組みを継続し、有松・鳴海絞の発展の為、後継者育成事業の更なる充実を図っていきます。

名桐 秋雄



有松のまつり 伝承展

昨年度、コロナ禍で山車の運行ができなかった秋、日本遺産事業として、文化財に指定されている有松が誇る3両の山車と山車まつりを、有松を訪れる方々、そして町民の皆様にも広く周知して頂くため「有松 祭礼と絞り展」を実施しました。更に2年連続山車の運行が見送りになった本年は、危機感を持って、山車まつりの歴史と文化を伝承していくことを目的として「有松のまつり 伝承展」を開催する事としました。

有松の祭礼は、桶狭間神社へ有松から参詣した行事を起源とし、絞りで発展した町と共に、祭礼も文化も発展し、現在は盛大な山車まつりが行われています。

9月18日〜20日まで、山車会館と棚橋邸において、山車はもちろんのこと、有松ならではの豪華な絞りの祭礼衣裳や、有松の祭礼の軌跡を辿る写真等を特別展示いたしました。貴重な資料を大勢の方にご覧いただき、有松の祭礼を次世代に引き継ぐ一助になったかと思えます。

また本年の秋季大祭は山車の運行は中止となりましたが、まつり当日は神事と縁日、中町年行司・天満社神楽殿において授与品頒布等を行わせて頂きますので、是非皆様楽しみにしていただきたいと思います。

竹田 宗弘

令和3年度日本遺産事業 鯉活プロジェクトについて

このプロジェクトは、伝統的工芸品である有松・鳴海絞りの技法を用いて鯉のぼりを製作し、有松に現存する構成文化財に展示装飾をして、来町された方々へのおもてなし感を演出するとともに、日本遺産有松のPRを目的に行われる事業です。



昨年に続き今年度も有松・鳴海絞りの鯉のぼりを4月中旬より5月9日迄、東海道の町家を中心に展示をさせていただきます。昨年16匹を製作しましたが今年は12匹、新たな技法の帽子絞り、唐松絞り、むら雲絞り等を加えて製作し、計28匹になりました。更に昨年11月に行った本藍染絞りミニ鯉のぼり製作ワークショップに参加していただいた方の作品も同時に東海道に泳がせていただきました。また、中部人形節句品工業協同組合青年部と有松幼稚園児の皆様のご協力で絞会館駐車場奥の竹田庄九郎

碑前に矢車付きポールを立て、手蜘蛛絞りの真鯉、緋鯉、子鯉を正に泳ぐように掲揚できました。事は、プロジェクトとして大変うれしく思う次第です。地元住民やコロナ禍の中で来町していただいた方々にも一時、ほのぼの感や爽快感を感じていただけたのかなと思っております。今回もご協力いただきました職人さん、展示作業にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。この鯉活プロジェクトは、日本遺産事業が終了した以降も毎年4月中旬から5月初旬に鯉のぼり展示を行いたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

中濱 豊



日本遺産事業 まちづくりワークショップ プレー！有松2021

「プレー！アリマツ」とは、日本遺産のまち有松を舞台に1世代先（30年後）には、どんな人が、どこで、どのようなことを営みながら暮らしているのかなど、有松での暮らしや働き方を考えるまちづくりワークショップです。

2019年度は、有松で培われた歴史や文化に対する思いを理解するために地域住民や有松ファンらと交えた対話を通じて有松の「これまで」と「これから」への意見交換をおこないました。2020年度は、事業や活動を引き継ぐ現役世代へのインタビューとSF的な思考を用いたワークショップによって、2050年に起こりうる有松の姿を「もしもし、ミライの有松」と題して参加者とともに描きました。

そして今年度は、昨年度に検討した2050年の在りうる姿を下敷きに、有松に実際にある遊休不動産を拠点として「もしも今、きっかけとなる活動が生まれたら…」を創造します。6月22日のキットオフ（オンラインガイダンス）を皮切りに、7月18日には参加者が有松に集まり、対象となる物件を見学し、有松の魅力を肌で感じたうえで物件の活用案をグループに分かれて検討しました。今後、10月9日の公開プレゼンテーションに向けて提案の具体化を進めるとともに、11月14日には有松天満社一体で開催される「アリマツチケット」に合わせて、今回の提案につながる具体的な取り組みを展開する予定です。

このワークショップを通じて、日本遺産のまち有松の今後につながる活動をすすめていきたいと考えております。

武馬 淑恵



令和3年度

有松まちづくりの会 総会報告

5月19日（水）、校会館大会議室にて開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため来賓はお招きせず、講演会も中止としました。

竹田嘉兵衛会長のあいさつの後、高瀬副会長を議長に選出し議事の審議に入りました。

議案は次の通り。

第1号議案 令和2年度 事業報告並びに収支決算書報告の承認について

第2号機案 令和3年度 事業計画並びに収支予算案の承認について

第3号議案 会則改正について

第4号議案 役員人事について

いずれも審議の末、拍手により承認されました。

昨年度は、コロナ禍で計画されていた事業も中止が相次ぎました。今は次代を見据え足場を固める時期ととらえて、会の目的を「重要伝統的建造物群に選定され日本遺産にも認定されたことを生かし、江戸時代初期より絞り産地として発展した町並みを保存し、まつりをはじめとする文化と絞り産業の普及に寄与し、活力あふれる有松のまちづくりを促進すること」と改め、竹田会長、藤枝・高瀬の2名の副会長体制で活動していくこととなりました。

（加藤明美）

有松ゆかたまつり

（7月2日～4日）開催

コロナ禍で絞りまつりは2年連続中止となり、有松の町から活気が失われつつありました。そんな町を元気づけようと企画されたのが「有松ゆかたまつり」。準備期間が1ヶ月半と短く梅雨時期でもありましたが、3日間ほぼ雨に降られることなく約1万5千人の人の出が見られました。市内県内からの方がほとんどでした。

幼いお子さん連れが目につきました。「浴衣を着る機会がなくて」と浴衣姿の方も大変多かったです。あちこちに吊してある絞りのタペストリーが雰囲気盛り上げていました。様々なイベントが行われ、人気だったのがあないびとの会による「町並みツアー」。1日4回程お客さんの好みに応じて50分程のご案内。また「工房めぐり」は、有松が絞りの産地であることを広く知って欲しいと2日と4日に合計4回実施され、蔵工房・張文・早恒染色の3箇所を見学しました。

お客さんにゆつくりと有松の奥深さを体験していただく良い機会となったようです。各出店者の販売も絞りまつり程の影響力はありませんでしたが、普段の土日に比べ倍以上のお店も少なくなかったようです。

（伊藤総俊）





- 1 階：カフェ
- 2 階：アートギャラリー
- 3 階：瞑想部屋
- 4 階：フォトギャラリー

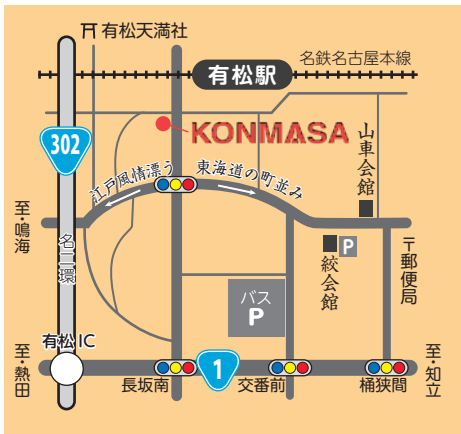


通称 KONMASAビルは、有松出身の現代アーティストKONMASA（コンマサ）がプロデュースする、カフェとギャラリー併設の4階建のビルです。

ビル全体で、来場者が「伝統」と「現代アート」を楽しみ、温故知新を得るような空間と体験の場を提供します。

KONMASA
The Art Building
☎ 052-825-3477

町並みの 新しい仲間



WEB: www.konmasa.com
Instagram: @KONMASA
Mail: art@konmasa.com

営業時間 11時～20時 水曜定休

住所 緑区有松1905 KONMASAビル

当ビルのカフェでは、「禅と瞑想」をテーマにしたメニューを陶芸作家の器にて提供します。

メニューには富士山の麓で取れた深蒸し茶や宮崎県の有機茶葉のフレーバーティー、インドから取り寄せた5種類の紅茶などがあります。

これらのメニューをKONMASAが各地に出向いてセレクトした、陶芸作家の想いのある器にて提供し、特別な一杯で感動的な経験を目指しています。

また、個室は1組限定となっており、暗闇の中、静かに特上のお茶を飲むスペースになっています。

街角ウォッチング ②

ある日の岡家住宅当番

先日岡家の当番をしていた時、とても熱心に竈（くど）を見ていた方がおられました。声をかけると竈について色々お話ししていただきました。自分でも少し調べてみました。以下はその概要です。

岡家の竈について

一 この竈は明治一七年以降作られるようになった改良竈である。

二 改良竈は煙突を付けている。

三 ロストル（金網）を使用して火溝があるの

で空気の回りがよい。

四 土台はレンガ造りでタイルでカバーされている。

五 岡家の竈は小ぶりの二つがセットになっているが煙突が一つ、今は無くなっているが煙突が付いている、熱を回すことによって燃費の効率を高めることができる。これらの仕様で燃費が従来の二つの一から三分の一軽減。

六 この改良竈を考案したのは尾張藩士で幕末から明治にかけて日本の科学者の先駆けとして活躍した宇都宮三郎氏です。氏は軍学者で大砲、火薬の製造を指導、後にセメント、炭酸ソーダ、耐火煉瓦製造に関わり、さらに酒の醸造法の研究でも知られています。昔の酒は腐りやすかったため、醸造法を研究しその精度を高める等、民業の発展にも力を尽くした人です。

現在は岡家の竈も痛みが進んでおり修復が待たれます。

竈一つからこんなにも話が広がって、調べることの楽しさを再認識した楽しい一日でした。

（浅野康子）

◆町並み研修会

本年度は実施を見送ります

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や内容変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。



有松も会場となります

『晩秋の有松を楽しむ会』

「伝統・文化・SDGs」をテーマとしたイベントを毎週末、1ヶ月間に渡り開催いたします。

開催日：10月16日(土)~11月14日(日)
の土曜日・日曜日

場所：有松東海道一帯

主催：晩秋の有松を楽しむ会
実行委員会

訃報

成田治様

令和3年3月19日ご逝去（満88歳）
有松の歴史を整理され、有松あないびとの会を発足させるなど町並み案内の体制を確立されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

俳句

「雑詠」
有松や瓦行燈秋の宵
駒停めの鉄環にあたる秋の雨
鎌研の橋の袂や曼珠沙華
江山

◆主な来訪者◆

（有松あないびとの会ご案内分）

桜花学園大学、椋山女学園大学の皆さんの地域学習、名古屋大学留学生の皆さんへのオンライン町並み案内も実施しました。
グランパス君にも有松をご案内♪



金鯱グランパスくん

編集後記

「まさか」のこの夏。暑苦しいマスク姿で過ごすのは昨年限りと思っていたのに。長引くコロナ禍に人もまちも元気を失いそうでした。そんな中で開催された「有松ゆかたまつり」は、久しぶりに袖を通す浴衣に、大人も子どもも嬉しさを溢れさせて、笑顔はじける催しとなり、有松にパワーが戻りました。

3年目の日本遺産事業、本当に次世代に繋げて行きたいものを念頭に多岐にわたり実施されています。皆で参加し「有松って良いね」と江戸時代の人々と同じように、未来の人達にも感じてもらえる有松を見つけましょう。（加藤明美）

企画編集（加藤一成・福岡友一・長塚 啓）

〈有松まちづくり憲章〉

私達は、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次世代に届けるために、この憲章を定めます。
一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
一、人と人がつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。

有松まちづくりの会

二〇二二年九月三十日発行（年二回発行）

〒458-0924 名古屋市長区有松三〇一二（有松商工会内）
TEL (052) 621-0178
FAX (052) 622-7401